整理番号

D－2－3　　658

標 題 名

茶樹病害虫経過防除一覧

著 者 名

発行者名

静岡県立農事試験場茶業部

発 行 年

昭和５

製作年月

平成３０年１１月

昭和五年三月

茶樹病害虫經過防除一覽

靜岡縣立農事試驗場茶業部發行

茶樹病害虫經過防除一覧

凡例

害虫

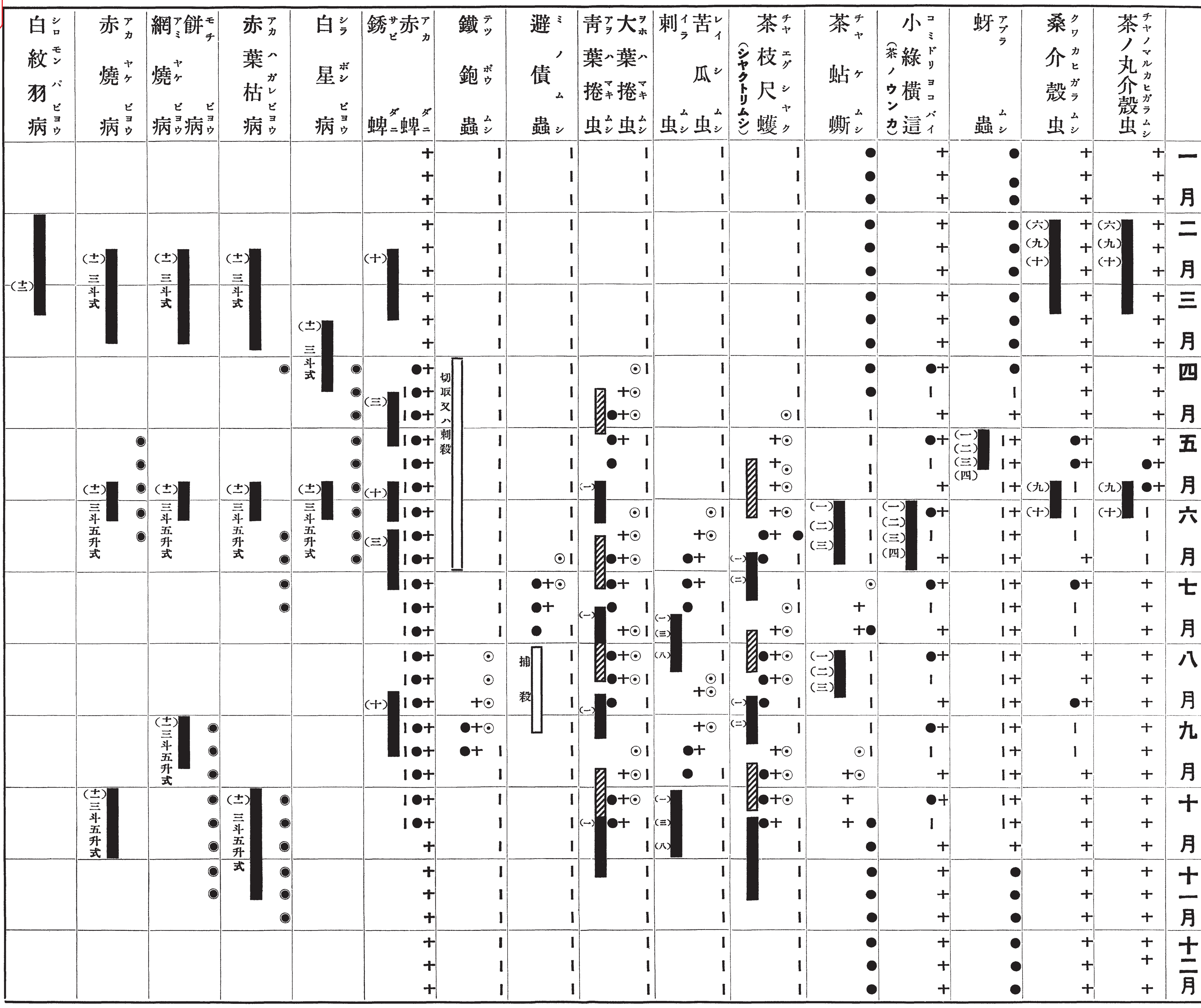
＋ 成虫　● 卵　｜ 幼虫　⊙ 蛹

病害

◉ 發病多キ時期

■ 藥劑撒布期　▨ 誘蛾燈點火期　□ 其他ノ驅除

括弧内ノ數字ハ藥劑番號ヲ示ス



主要殺虫殺菌劑

藥劑番號	名稱	調合量	調製法及使用法
（一）	除虫菊石鹸液	除虫菊粉 一五―二〇匁 石鹸 二〇―三〇匁 水 一升	石鹸ヲ煮沸溶解セシメ火ヲ引キタル後豫メ水ニ濕シタル除虫菊粉ヲ加ヘテ攪拌ス 蚜虫、ウンカニハ除虫菊十五匁石鹸三十匁、毛虫、尺蠖虫ニハ除虫菊二十匁石鹸三十匁、レイシムシ、イラムシニハ除虫菊十匁石鹸五十匁液ヲ用フ
（二）	六液	除虫菊粉 八―一〇匁 石油 五勺 石鹸 一〇匁 水 五合	豫メ石油ニ除虫菊粉ヲ浸シテ一晝夜間密閉シ置キ調製ノ際先ツ石鹸ヲ煮沸溶解シタル後之レニ除虫菊石油ヲ投ジテ撃シク攪拌ス 蚜虫、ウンカ等ニハ一斗液、茶ケムシ、尺蠖虫、イラムシ、ハマキムシ等ニハ五升乃至八升ニ稀釋シテ用フ
（三）	デリス劑	（一）デリス石鹸液 デリス石鹸 一六〇匁 水 一石 （二）ネオトン石鹸液 ネオトン 六〇匁 石鹸 一二〇匁 水 一石	デリス石鹸ハ小許ノ水ニシテ練リナガラ溶解シ漸次水ヲ加フ ネオトン石鹸液ハ石鹸ヲ煮沸溶解シタル後ニネオトンヲ布袋ニ包ミテ之レニ投ジ振リナガラ溶解セシメ後ニ水ヲ加ヘテ所定ノ分量トス 蚜虫、ウンカ、赤ダニ等ニ用フ
（四）	デリス乳劑	デリス石鹸 六匁 石鹸 五―一〇匁 石油 二―三合 水 一升	デリス石鹸ヲ水ニテ溶解シ別ニ石鹸ヲ溶解シテ加ヘ全量一升トシ更ニ石油ヲ加ヘテ撃シク混交攪拌ス 蚜虫類ニハ五〇―六〇倍、ケムシ類ニハ二五―三〇倍其他ノ害虫ニハ此標準ニヨリ斟酌シテ用フ
（五）	硫酸ニコチン石鹸液	硫酸ニコチン 一―一、三合 石鹸 一〇〇―二〇〇匁 水 一石	石鹸液ヲ造リ後之ニ硫酸ニコチン液ヲ加ヘ攪拌ス 蚜虫、ウンカニハ千倍乃至千五百倍トス
（六）	機械油乳劑	機械油（Cマシン） 一升 石鹸（アデカ） 五〇匁 水 五合	水五合ニテ石鹸ヲ煮沸溶解シ更ニ機械油ヲ加ヘテ沸騰セシメ後火ヲ引キ強力噴霧器ニテ急激ニ混合攪拌スレバ少シク黄色ヲ帶ビタル原液ヲ得ベシ使用ノ際十五倍ニ稀釋シテ冬期介殼虫驅除ニ用フ、乳劑攪拌機械ニテ製造スルヲ最モ可トス
（七）	機械油混合油乳劑	機械油（Cマシン） 一升 アデカオイル 二―四合	機械油ニアデカオイルヲ加ヘ竹棒ニテ撃ク攪拌ス大量調製ノ場合ニハ攪拌機ニテ混合ス此場合ハアデカオイル二合ニテ可ナリ本原液ハ十九倍稀釋シテ機械油乳劑ノ十五倍ニ相當ス
（八）	石油乳劑	石油 一升 石鹸 一二―二〇匁 水 五合	石鹸ヲ煮沸溶解シ別ニ石油ヲ攝氏七〇度位ニ暖メ後兩液ヲ混シ直チニ強力噴霧器ニテ撃シク混合攪拌ス 蚜虫、ウンカ等ニ二十五倍乃至三十倍ニシテ用フ
（九）	松脂合劑	松脂 八〇匁 苛性曹達 六〇匁 水 一升	熱湯一升中ニ苛性曹達ヲ投ジ沸騰溶解中ニ粉碎セル松脂ヲ加ヘ除々ニ攪拌ス兩劑ノ全ク溶解セルヲ度トス 冬期介殼虫ニハ十倍夏期同幼虫ニハ二〇―二五倍液ヲ用フ
（十）	石灰硫黄合劑（酸曹液又ハ太陽液）	普通商店ニテ販賣セルモノハボーメー比重三十三度アルモノヲ標準トセリ	水ニテ溶解シテ用フ 二、三月頃介殼虫驅除ニハ七、八倍液一番茶摘採直後介殼虫幼虫ニハ四十倍液、又赤ダニ、銹ダニニハ二三月頃四十倍液夏ハ八十倍乃至百倍液ヲ用フ、但シ新芽發生ノ時ハ藥害アリ
（十一）	石灰ボルドー液	硫酸銅 一二〇匁 生石灰 六〇―一二〇匁 水 三―四斗	大小三個ノ桶ヲ用意シ、小桶ニテ硫酸銅ヲ全量ノ半分ノ水ニ溶解シ別ノ小桶ニテ生石灰ヲ半量ノ水ニテ溶解シ後大桶ニ同時ニ混入シ急激ニ攪拌ス 又全量ノ一割位ノ水ニ生石灰ヲ溶解シ、殘量ノ水ニテ硫酸銅ヲ溶解シテ生石灰液ヘ硫酸銅ヲ投ジテ攪拌スルモ可ナリ
（十二）	生石灰乳	生石灰 一貫 水 一斗	生石灰ヲ湯又ハ水ニテ消化セシメ除々ニ水ヲ加ヘテ全量一斗トス 土壤消毒ニ一坪一斗位ノ割合ニ用フ

昭和五年三月

靜岡縣立農事試驗場茶業部發行

P 2-3 658

D
2-3
658